

2021年4月20日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/4/20号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

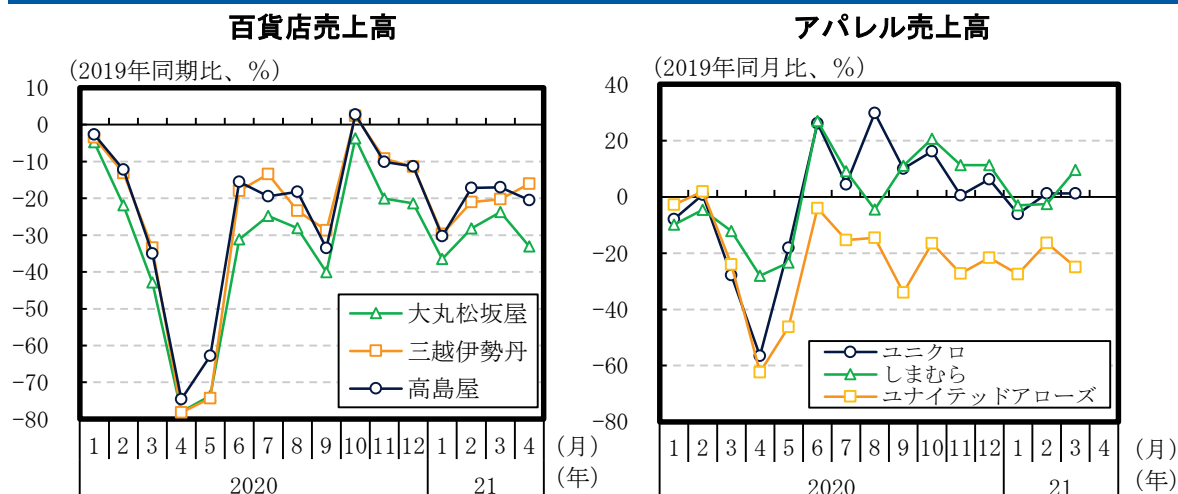
## [要約]

- 4月前半の消費は減少に転じたとみられる。財消費は堅調に推移したものの、感染拡大の深刻化を受けて一部地域にまん延防止等重点措置が適用されたことでサービス消費が落ち込んだとみられる。足元でも新規感染者数の増加に歯止めがかからず、措置の対象地域は段階的に拡大されていることから、月後半の消費の落ち込みはさらに大きくなる。
- 【小売関連】4月前半の大手家電量販店の売上高は3月平均比+7%程度、ホームセンターは同+4%程度、スーパーは同+1%程度といずれも増加した。他方、4月前半の大手百貨店の売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同月比で2~3割減程度と、3月からマイナス幅が小幅に拡大した。
- 【サービス関連】4月上旬の新幹線輸送量は、2019年同期比5~6割減程度と3月からマイナス幅が小幅に縮小した。ただし、月後半にかけて感染拡大の影響が重石になるとみられる。小売店・娯楽施設の人出は4月に入り減少傾向が続いており、それと連動する外食・旅行・娯楽関連消費の落ち込みが予想される。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の4月前半の既存店売上高伸び率は、前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を除くため2019年同月比で見ると、2~3割減程度と3月（同2割減程度）から全体としてはマイナス幅が小幅に拡大。まん延防止等重点措置の発出が影響。
- ◆【アパレル】3月のしまむらの既存店売上高伸び率（2019年同月比）は2月から上昇。平年より気温が高かったことから春物販売が好調。ユニクロは横ばい。他方、ユナイテッドアローズはマイナス幅が拡大。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2021年4月は14日まで。

2021年1月以降の大丸松坂屋と三越伊勢丹は大和総研による試算値。

(注2) アパレル：既存店ベース。大和総研による試算値。

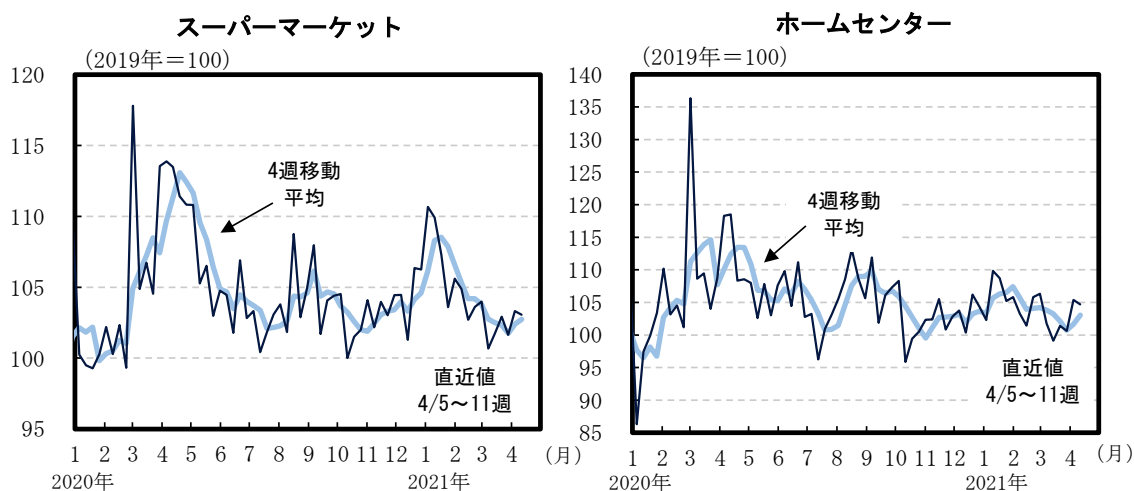
ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】4月前半の売上高は3月平均比+1%程度。（大和総研による季節調整値）。主力の食品も同+1%程度。
- ◆【ホームセンター】4月前半の売上高は3月平均比+4%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、化粧品などの幅広い品目で売上が増加。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

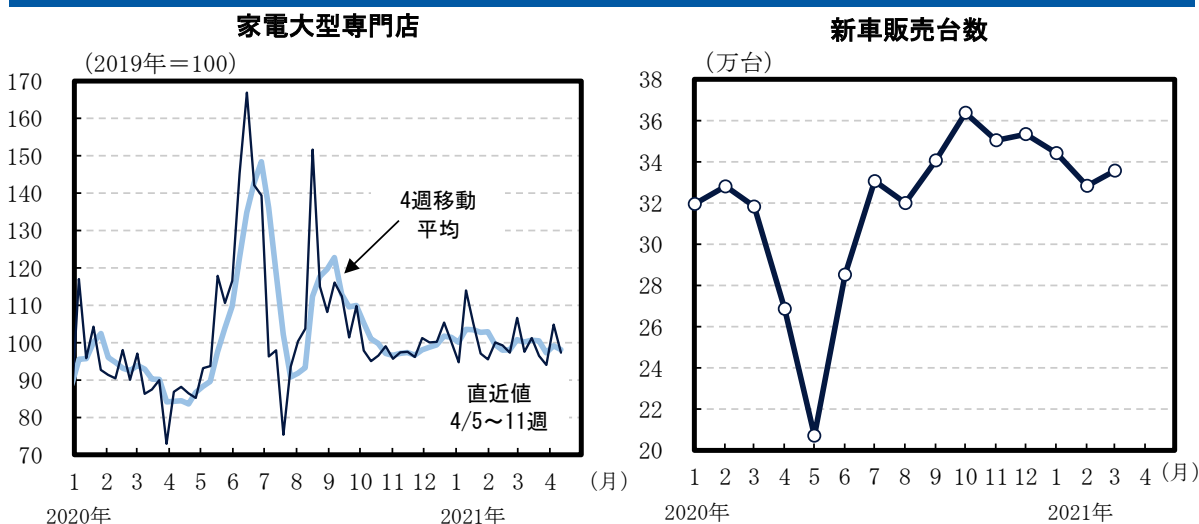


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】4月前半の大手家電量販店の売上高は3月平均比+7%程度（大和総研による季節調整値）。冷蔵庫やテレビの販売が増加。
- ◆【自動車】3月の新車販売台数は2月から7千台増加し、前月比+2%程度（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

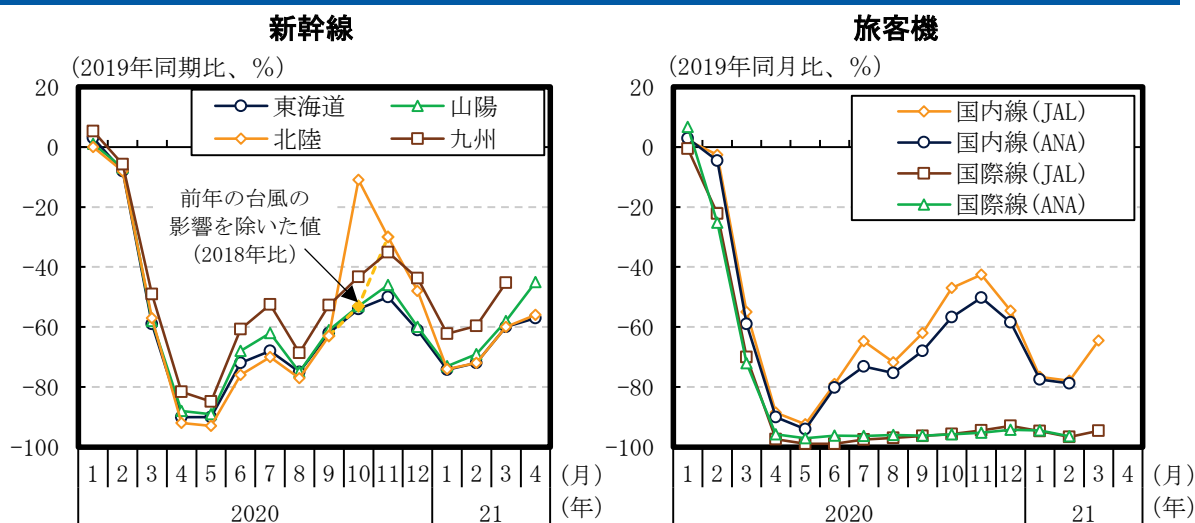
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】4月上旬の輸送量は、2019年同期比5~6割減程度と3月からマイナス幅が小幅に縮小したものの、月後半にかけて感染拡大再加速の影響が重石になるとみられる。
- ◆【旅客機】3月のJAL輸送量は、国内線は2019年同月比6割減程度と2月からマイナス幅は縮小。国際線は同95%減程度と変化なし。4月のJAL・ANA国内線減便率は3月より低下するものの、感染拡大などの影響により輸送量は鈍い動きが続くと見込む。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



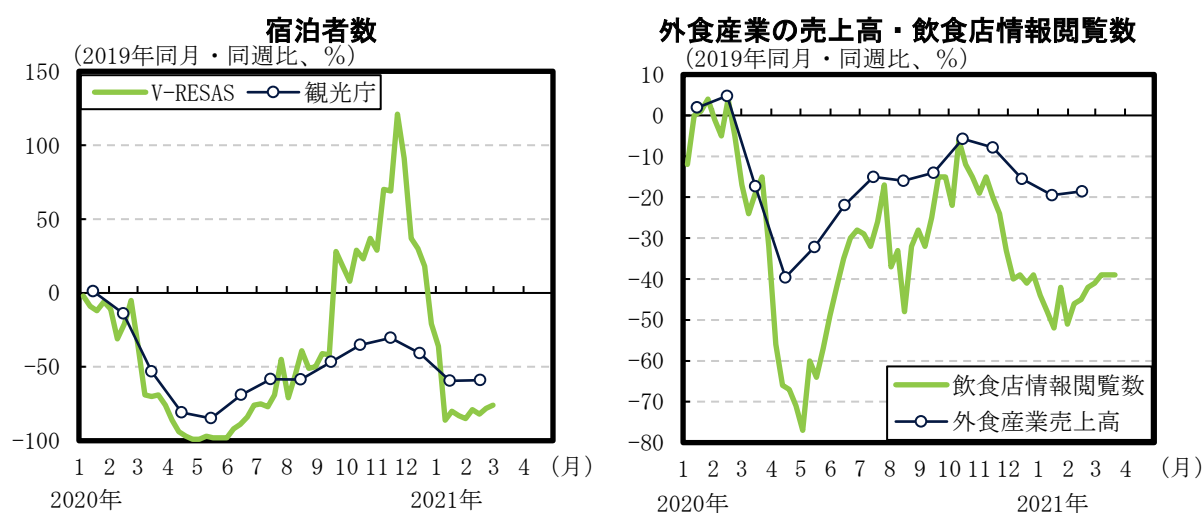
(注1) 新幹線の2021年4月は7日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】2月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比6割減程度と1月から横ばい。3月は緊急事態宣言の段階的解除を受けてマイナス幅の小幅な縮小を見込む。4月は一部地域でまん延防止等重点措置が適用されたことで伸び悩む見込み。
- ◆【外食】2月売上高伸び率は2019年同月比2割減程度と1月から横ばい。宣言延長による営業時間の制限が重石に。V-RESAS や人出のデータに基づくと、3月は宣言の全面解除や営業時間の延長によりマイナス幅が小幅に縮小するものの、4月は感染拡大により再びマイナス幅が拡大すると見込む。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



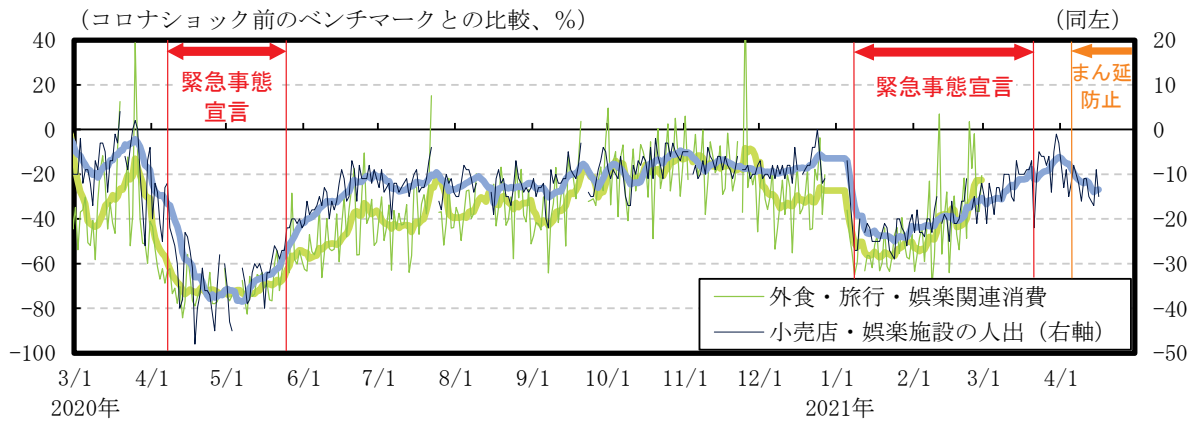
(注) V-RESAS のデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESAS は宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESAS より大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 4/16）と外食・旅行・娯楽関連消費

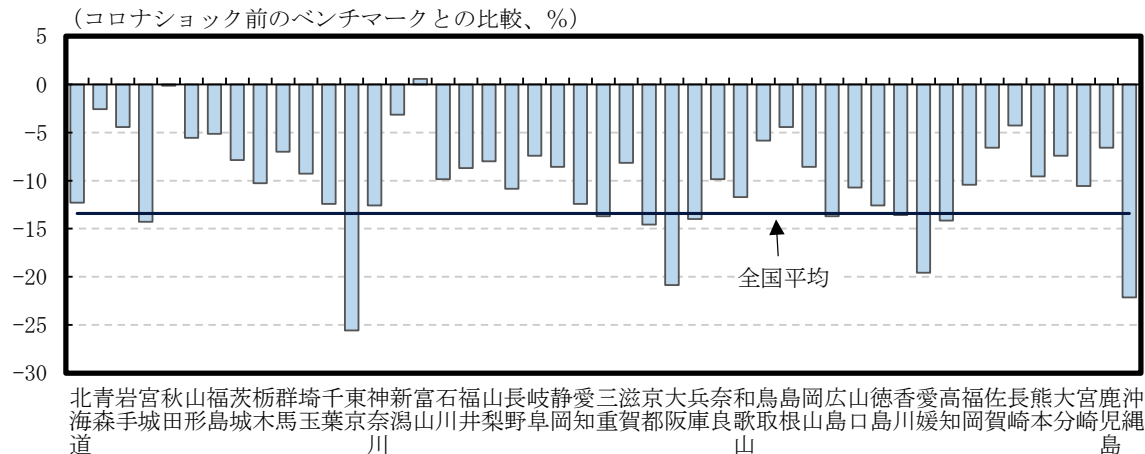


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆（2020/8/10～14）、年末年始（2020/12/28～2021/1/4）のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

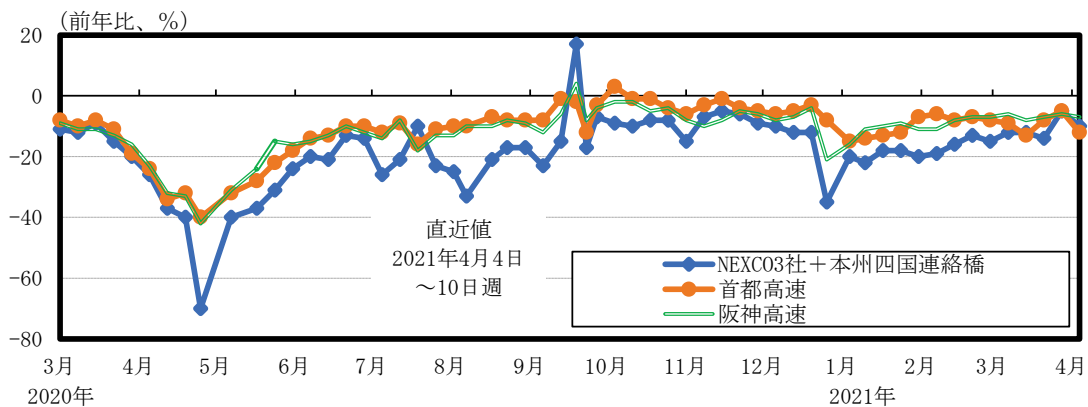
図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（4/10～16 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成